京都繪所領り代々土佐守ニ任シテ今土佐将監迄累代相續
将軍家ニテモ土佐流分家江戸ニ住吉町記板谷桂舟是ヘ

又多ク画ク名仰多ク拙キ究テ少ク拙妙の画ヲよク墨筒ヲ字跡ヲ
明ラメ古ヲ考ヘ世ヲ追フヲ以テ其ノ生質ヲ
ヲ一ニシテ当世ノ人ノ尚名ヲモサゲ
代ヲヲヘ名ヲ後ノ時ヲ押ノ三ツヲ以テ我ガ好ム所
ル意味ノ事ヨク友ヲスルヲ以テノ名人ノ所為ニ倣ヒ所ヲ
ニシテ

○大津又ま　大津画　一説追分画ト云

抑ル小元禄二年ノ板ノ東海名所ニ大津追仏画ヲ
あると記スヨリ仏画トモ云テ今ノ如キ我画ニ非ル故ノ
中ヨリ毛坊主ト云ヲ以テ仏ヲ業トス拙キ画ヲ
ヲヲ云ヒ本ヲヨリ石地蔵ヲ
西ノ大津画ノ濫觴ト云ヒ
大津画ノ筆ノヲヲヤ仏
又世ニ

ヲヲ仏画ト称ヒ大津画ノ画ルヲヲノ仏画ト
板刻ニ移モノヲヲ本朝文選ニ曰ク浮世又ヲ云ヒ大津画ノ元祖ト
云ヒ山元春ヲ人ヲヒ云ヒ浮世絵ノ元祖ト云ヒ

国立国会図書館　燕石十種. 第25-26冊　わ081-10

ガラス使用

又魂香　化年中と云ふ土佐の画手浮世又平と共に大津
住て画とることを〳〵とつくまもる号にてまもる〳〵虚空と称ふ
或説よし又平と云者のうてかきくもむ意住の法と共に浮ありと
云ふ大津の古画奴の筆を把うる号と称ふ又平又平久もとき
てむ押ある古軒ものもの浮世絵師の筆ひのうき画とうる大谷
好色猿と号ふ曰大津追分中うち経師の筆ひのうき画とうる大谷
さく経師の画も姉ものとうる大津画と浮世絵師と旦浮世又
平うことと称んがあるを号と記んし

菊世又平

月岑云

名代仰せうるおもむき
摸と吉岡まるべし

元禄六年板本諸国咄巻之五に菊世浮橋西洞院
古又平とあり号名ふ岩佐又平が名を仰せうるおもむき
多〳〵と号ふく四条通に住所のうち浮世画師也
浮世画師也　以上浮世繪類考追考山東庵考證
杏花園蔵書

○菱川師宣　正保ノ生と慶安兼応明暦。寛文。延宝
天和。貞享。元禄。宝永。正徳。中没ス七十余

姓藤原　一説　日本繪師　菱川氏
俗称吉兵衛　後剃髪して友行と云
安房国平群郡保田町の産也

吉兵衛師宣ハ本朝ノ浮世絵ノ元祖ト称スベキ名人ナリ
始メ画ヲ狩野ノ席ニ学ビ後一家ヲ立テ浮世絵ヲ専ラ
ニス

（土佐派ノ下ニ入ルベキニ非ラス其画風ハ傲然トシテ東西ト云ノ如キモノナリ）

国立国会図書館　燕石十種. 第25-26冊　わ081-10
ガラス使用

ぬるう赤板下画と云ふ〳〵此事う浮世板下画の始祖と云へし浮世絵
して友竹と云村松町或丁目に住ス

紙絵女とまく事う明刻の画事ある浮世絵考

菱川師宣伝ス系図

菱川吉兵衛師宣利潤と友竹と初めい通称と称ス業と
土佐とうのう画と云きなひ一家となせり英一陸と時と
用ゐとい云へども十年ほどう前ス岩佐氏う事ス世ス初る描ス師宣い
森の画風とをなし浮世又ハ岩佐氏う事ス世ス初る描ス師宣い
一幅う軸物ありとい云へ一家となせり
一幅う軸物ありとい云へ一家と朱せり当ふ之世の名画あり
一幅ありとも師宣う画風とをなひ一家ひらくるひ小ぶ事ス画版一様の絵ようも
のみ岩佐菱川が上ふをんするとうりかりをひく一幅と
をべし師宣ありと画て板刻の浮世絵
多一細密の人江戸絵と称て板刻の画成ス詳人ス記ス
「ふる一巻よ」山崎の吉左ひそひ松ことて

菱川ふうの吾妻絵

其角

嵐雪

みす一栗い天和二年の板ありひさうあるそとそ

菱川氏系図

藤原姓　菱川七右エ門　房州平群郡保田町住
　　伯屋ヲ業トス

菱川吉左右エ門道　房州平群郡保田町住
　　家業扇屋ヲ業稍妙也

茂入道光竹　寛文二年二月十五日没

国立国会図書館　燕石十種. 第25-26冊　わ081-10

ガラス使用

実子 菱川吉兵衛師宣入道友竹

房州平群郡保田町ノ産右等享年七十余

浮世画ノ祖始テ繪舘師度以画為一家

居所ノ考ニ負実四年板江戸鑑ニ村松町三丁目 元禄二年板江戸図鑑及同五年板買物調方三合集覧橋町トアリ一説堺町横町又大傳馬町二町目トモ是等轉宅ノ処ナルヘシ

二男 同 正之烝

養子 菱川政信

画風ハヨリ師ニ似タリ

養子 菱川友房

画風ハ似テ筆アトレリ

養子 古山太郎兵衛師重

江戸長谷川町ニ住ス元禄中ノ人

図鑑見ニ合集覧ニ菱川太郎兵衛有古山ト本姓ナシ

養子 古山新九郎師政

享保中ノ人

孫 文志

両国 米沢町ニ住ス

江戸屋長屋

此人ヨリ下世事談ニ見エ

実子 菱川吉兵衛師房

始吉左ヱ門ト称ス庶子及図鑑三合集覧等ニ吉左ヱ門トアリ父師宣ト同居始画師度但屋ヲ業トス

二男 同 沖之烝師永

庶子及図鑑ニ作之烝トアリ一説ニ酒造之烝父ト同居彩色ニ妙ヲ得タリ

実子 同 佐次兵衛重喜

家業但屋

同 治右エ門

師宣ノ血脈六代目ニ至リテ絶ス今養子ヲ以テ家ヲ継房州保田町ニ在リ是七代目ナリ女子他ニ嫁シテ血脈ノ者同所他家ニ有ト云

房州保田村林海山別願院境内ニ在リ

洪鐘 一口 周廻七尺厚二寸五分 口二尺二寸九分 長サ三尺五寸

寄進施主

国立国会図書館　燕石十種. 第25-26冊　わ081-10

ガラス使用

菱川吉兵衛尉藤原師宣入道友竹
元禄七甲戌歳五月吉日 鐫字如上
予古木一紙ヲカカム
以上京傳説考
追考
友竹ハ菱川の祝称なり 以て善actと記す
杏花園蔵深世澤新考曰菱川吉兵衛師宣大和絵師又日本画師
ニモ稱ス房州ノ人也
繪本師宣著
男士ちちそ 二冊 自ニまで
松に石女 二冊 元禄年板 やまと絵の大家 一冊
画本大和錦 二冊
月次の松い 二冊 元禄四年板 やまと絵のこころみ 一冊
大和絵師菱川吉兵衛 大仏馬下ニ住ス 錬成斎同板

吉兵衛天和貞享の比の板本等貞享四年の板江戸鹿子ニ
深世澤師 菱川吉兵衛 同
元禄二己年板江戸図鑑ニ
深世澤師 橋町菱川吉兵衛師宣 同吉兵衛房
長谷川町 京山本房吉兵衛師宣 深ま 戸川伊兵衛之
通油町 杉村治兵衛正高 橋町 菱川縁之兵衛永
天和四年板 ちちそ大全 菱川
貞享三年板 吉田まま画 ニ
貞享三年板 狩家図案 年板ハ師宣画
。床徒然。艸書軌範 。猿蓑宛 。色双ま。乞世大世
若ニ師宣画ちとちやるやや書見

国立国会図書館　燕石十種. 第25-26冊　わ081-10
ガラス使用

国立国会図書館　燕石十種. 第25-26冊　わ081-10

ガラス使用

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20

8 9 180 1 2 3 4 5 6 7 8 9 190 1 2 3 4 5 6 7 8 9 170 1 2 3 4 5 6 7 8 9

R G B C M Y K

文享元禄の比松元江戸大伝馬町武丁目鶴屋喜右衛門今与次郎
西村与八等り

元禄五年板罗紗綾文基覧 摸切本一冊

江戸深世住師 菱川吉兵衛 同吉郎 日吉卿吉兵衛

三馬曰元禄十年板也 衆花 万葉記 七ノ下ニ

大和絵師 菱川吉兵衛 同 吉郎 村松町二丁目

此條蛇足の辨り刪ノ字ニ

抱月井浮世秀ノ俗説 英一蝶

猩々抱月ともうすことを述ん

俗説 英一曰俗間の画師そうも優画師ともく
後日有紀曰英一蝶元亀年従六位下江見押勝ノ姓と更為優画師と
なりとぞ云々みそうふるものなり

○英一蝶

一蝶ノ傳諸書ニ記スヲ見ルニ誤リ多シ浮世画師ト云ヒ有ヨトモ時世ノ人物ヲ画ヲ師宣ガ俤凡ニ出ルケモ見エレバ皆ノ浮世画ニ列ス

姓藤原 多賀氏 一英氏ト云母姓花房ニ

父ハ医師也十五歳の時江戸ニ来り狩野安信 安信後慶安正徳の人 門人となる名信香 一ヨ安雅始号賀 幼名

とゝほよ英一蝶と改メ一家をなさん書画ともに風流の秀才なり

号翠蓑翁 一蓑翠トモハ誤リナリ 牛丸 幼名トモハ称ヘシ 暁雲 俳諧ノ名ナリ暁雲窯トモ云

舊草堂 一蜂閑人 後ニ入ルニ 傳燕撫庵 鄰濤庵

北窓翁ト改号アリ

俤ヨリ曰一蝶ハ親ニ孝ヲシ人ト交リ朋徒ヲ愛スルヲ名トシ暁雲ト名ヲ改ムト云ヘリ按ニ此ノ人ハ芭蕉翁ノ門人ニテ其閑居ヲ

名ヲ暁雲ト云ヒシ也 ヨシハラ 街ヨリ北ノ方ヲ吉原ト云ヒ元禄十年三月 八年トモ 吉原町二丁目ニ新造ヲ抱ヘ

時ヲ定テ酒セリ今ノ遊女ノ始ナリ十二年京永六年

九月 ヨリ 罪ヲ蒙リ 故郷ヲ去リ 一族ト称ス 一族ハ花房トモ

ト号シ享保九年甲辰正月十三日 一蝶ト称ス 一蝶と称し北窓翁

楼日蓮宗兼教寺塔中顕宗院ニ葬ル

辞世 まどろむ程もなき世の業のそらゆめの浮世に一蝶

一蝶ニ老母一人ヲ残シ利発ニシテ幼寿ト云一蝶八女ヲ配流セラルヽヤ

蝶が友家抵 宗珉 家ヨセシヨリ俗称模若沢ヲ梅和町ヨリ住ス正徳

国立国会図書館　燕石十種. 第25-26冊　わ081-10

ガラス使用

三巳年三月廿日没す　以上玉考返考
京傳ノ記

一説ニ曰一蝶紀流てられ安房ニ
地形ノ高キヲ画ト云ヲ聞テ
常ニ一蝶ニ云ハ兄ヲ
嵐雪撰文ニ
元禄三年板
一蝶ノ自ラ
花ヨ来てあそべ世の人
朝寝して様ヲ
ともする
四方の春　雄雪

高嵩谷藏
英一蝶　七十三　兼恵之生ん明屋　万治寛文之生宝天和貞享元禄
宝永正徳享保元年没ス

一説二代目一蝶ハ大島ニ出生ス赦ニアヒテ
共ニ江戸ニ具シタリ是ヲ島一蝶トイヘリ

三男実子
一嫡　名信勝　俗称長八
二男
一嗣　俗称等賀市私淑門ト云

一舟　一舟男
一川

一舟ハ門人ナリ養子トナル
名信種号東窓翁俗称伊兵衛
明和七年廿七日没ス顕宝院ニ葬ス

門人
一水

一蝶蝶年ノ門人

一蜂　号春窓翁

門人
一高嵩谷　別号屠竜翁　号一雄

一説ニ云一蝶ノ子
多賀長八郎信勝号一蜂

嵩渓宣信

一蝶の画鑒定ニ而ハ狩野安信の印ヲ
画といやしめて不用町画とする
ハ非ス而已ならず古作の又ハ
写ニ而も狩野氏ニて写ニ
ハ骨董

或書ニ曰元禄の比五代将軍家綱公　常憲院殿ト号ス
宝永六年逝去　好ニお歌らせもひ
吹上ニ而度々御招ニ而御ニ
ハ一蝶の画ニ而ハ
なくて二の丸おもて

方ト君のゆゑよしひろ　阿佐の方八至極小男ノ格五俵ニ人扶持黒鍬但白須之兵助娘ニ后年ニ至リ四線本ニ昇進シテ一度朝敵太白須遠江守ニ任セラレタリ

て一調とすつ或時ハ吹上の庭の池ふなを取とうめそハ捕しの〳〵お情の方ハ敵とそくゑ遠おつ〳〵捕さしの楽ニ於ひ気毒ながらめそ〳〵不図人ニそ〳〵共ニ絵師百人女房ニ絵と書て表へ体の姿画と写〳〵共ニ世上ニ〳〵四ツ半ニ敵と步捕さし遠ふつゝ毎ニそ〳〵そう〳〵ハ捕ニ入寄ニ死の表ハ鈴湖法製表紙の数ニ〳〵ニ至ル所の多と百奥と拘ル所ニ絵ニ〳〵ニ鈴湖ニよる配ゑ注ニ拘ニ〳〵ニ絵ニ配ゑ一ニと設〳〵ニ至ル一陸ニそニハ四絵ニ

行ニ〳〵百人女房の内ニ絵の方毎ニ於ひの絵ニ百種の絵ニ〳〵ニ至ル所ニて四絵ニ通〳〵ニ至ル所ニ依〳〵刑ニ〳〵ニ本ニそ〳〵ニ〳〵ニ〳〵ニ

江戸中川口の上品川ある 僧玉栄ら改葬ありし時 墓石の下より五の
石塔発掘せり 墓誌八幡の塔を建立せし事 又右松平安芸守殿家
中なりし事 又寛文十二年子の年 新地ある石にて江右三上塔を造而
主従正流孰と名ある 宗の玉栄ここに白山田法華ともろ(此ニ宝暦七年ノアリ)
俗妻私領をうしなひ浪滅寺私のうきよぬる
ほまれの夜の錦 琴うとをせて匂ひ残せる
るこぶ庵の心

後水尾院御製

なき跡もうき世なれやもからん
後の名ぞうき浮名なりける

加藤霞谷筆画幅

近代繪事之巧莫小忘翁若焉其気象之豪放筆力之
道劲足以追踪於古名人而新奇洒落其所獨得者也翁
姓多賀氏諱信香一名朝湖又有暁雲翠巖隣樵等之
別号考曰白庵諱某京師人也翁幼遊江戸某候嘗愛其
顙悟使之学画於牧心高先生居久之尽得其筆法時又

戯倣岩佐重起菱川師信而画時世風俗有春蠶
吐絲雲行水流之姿而翁之名籍甚元禄中坐事
配流於三宅嶋

周曰一陸小歌の化るもの多く自画賛の句牧拳をへら
れ杜の埜 元禄十六年の板行小唄と書るあり杜の埜と云小唄に一陸の化るもの
汨房浩園などいふ雅の号歌一名かぶつるまと号て
是とのせるも俳書毎の賛也師と仰てうこいる
もの杜の埜は編と杜の
序等と云の類歌の如き載る宝永の比吉原
はやりうたと云ありやつるまの紅粉うたこそ入句を
出るもおかしけれこゝに魂祝小一陸をうたて小唄とう
そひろう〳〵元人よりて化出や文ちうるなどよせて庶
中おのこ書しめるとなれいぶたも方べし云句の集る庵を
呼一陸小式亭出生して毎の元と満布の歌とかいまゝ画き

返り點しるしをも摸写す家蔵の本のごとしかの
ところ以上返考記

英一蝶四季之繪跋

文大和画いそのうち土佐刑部大輔光信が筆意のうつるまで
より四条のぬつてうるさゝ及ばざるところあり
こゝまでまりて来るまなばれ予が好きのつくるきまで也と
まさしく狩野の筆とおんなじふりの余白描なの
時勢(イマヨウ)粧(スガタ)ひとれのうち写しそこなひ世人淫せる事とあざ笑ひて久
しく世を経ぬる又房州の蓑川師宣といふもの江戸より出て挿絵
おこなひそのつゞ風流の貝とよろこぶ比ろ
あらたにうつしはあざ波のうち寄ぶまゝひけ面影うつ
のまゝやきしいとざるところあり予が筆意
てくろ好きうるその筆のこゝろをまね
そもなれうさうが中おもうしこゝ偏奇さんらんと十とせあまり
廿とせおもきことゝ思ひ記しの事ぬ
あるくひとの手のつはものたいひまで画とふさびやまんし
んくまゝく眼すこゝろ筆勢と千筆おもうこゝろをもつ
そらざうそうしてその世のうれば誉のおとそう
我こそ神たるをすらばそこあまざる田舎わたまの姿画こそ
ろへてけ一巻とうと画がを七世の

ひなるみを通へつため〳〵よびきてこうよろこびをそうのうたう
おれがこゝろあり波に英一輪も　一輪有の心優雅なりとよろこび詠書
やられいきよき水哉

掛つる多賀の鈍湖は霞町きて月影に元禄五
宮年十二月三宅嘯竹流る時本業学ニより宮永六巳
年九月敬次浪川ニ移ル　浪川敬の門一輪卜云者
享保九辰年二月十二日没（以上類考）

湯原氏紀ニ元禄七年四月二日桂昌院様六角越前守ニて金屏風ニ双吉野ニ高ニ尺ニ
幅ニ多賀ニ鈍湖ニ月一双大和耕作ニ命ス日ニ双大和耕作ニ命ス日ニ人ニ彩ニ仕上

○西川祐信　元禄宝永正徳享保元文寛保延享寛延没年

俗称　右京　初祐助　京師ニ人也　居住
姓藤原　西川氏　号自得斎　一号文華堂
稱大和絵師　世ニ西川流ト云

京都ニ住始メ狩野永納門ニ入（法眼永真延宇ノ比安信門ニ入後故助永納宇伯受一陽歟梅岳堂西邑居前ト号）て画ヲ学ヒ后為一家ト為して宝暦明和ニ至永ノ比大イニ世ニ行ル中興列ス仕女大和絵の画祖ト云へし上梓スル物多シ浮世絵師の名誉あり（紀ス）ル事ニ有ケリ百人一女ニ所ニて重ニ信ノ筆ニ時世の風俗ヲ写シ画ケリ后文ニ色ト共ニ画ヨル紀シ（ル）バ最モ（ら）れしと云事ニ世ニ伝ル物多ク画ケリ

国立国会図書館　燕石十種. 第25-26冊　わ081-10
ガラス使用

なひ一浮世画師いけ人よ浪まち或人の頼さよ祐伝画の美まて
冗せられしを我きるものとそ名我きられしを西川のみ
事なあしきをはゝきるす

絵本百人美女　日　倭比事　日

此以画本ノテイヲハイ
但紫表紙金泥
きキアリ大本小本ヨ
ヒカラス美人モアリ
近世文化比ごの好
色本ノ如クナリ

日　日　日

日好色百人美女　西川祐信筆　日

其色好事をべくし赤彩色の妙なるし肉そまの浪をあ世人まく松
事ん　を世東記ていひ宣ふ祐信の画ハ倭事ハ
描よ板刻本ハ勢なあるハ文字をあり祐信が初ハの比画ハと

好色玉篇　画名西川祐助祐信
筆下有

ゆうりの多し画名ハ記さざれともひんとう
或書ニ曰西川祐信ハ浮世絵ニ松画好色本の美人と云ハ誤なり
人女絵不宜と云大内の儀しるとを画きまたは好色みゝ閨とを云上
のそゞきの松笠と板刻をて人女絵のつゝ浴ハ風んまあきかくの
松序窓通の狭洗冷殿の書信まで刻よ垂の儀し書萩の花画の如き
好夜うの殿の妻ひとんど種こむ屋の中の儀しるとを画くて
公祖ととをてく当安ハ巻と更板刻描割をれ刻色しるとや
世の人の勿所こ甚氏ちいは好色本妻男と止ふひとをそふ
画ふまふふ祐信も一様う彩ぬことこそ
こゝに

国立国会図書館　燕石十種. 第25-26冊　わ081-10

ガラス使用

守ノ字ヲ名ノモハ狩野出家ノ後許ヲ受ケシ

○橋守國　享保中ノ人　延享中没ス

俗称惣右衛門　浪花ノ産也　居住

姓橋

号□信　号浪一斎又素軒

狩野探山の門人にて業を更（探山名信鶴沢氏探遠門人大坂人ナリ）

世に有名人物略伝ともに矢、乱板の画を妙とす。其容姿

巧拙人となり記す利生有教秤天保のそのかみ（筆世に行る古画

そもに古人文学博識の秀才なりあ世の画師の為に廣く画法

を伝へ給はんとて精力と費へ画と巧倩古

其ことを談て老と板刻セしむ画本の若画古ふる比おのなる

世に知るものより春と名倭法の名家ノ一といへ其業とこよる

るのし守也い要くんのみふせーなり板刻画の活名とそう画ノ

ところまーるでし書籍とうざる仮家の老の為に実有画

伝とも乗り画也と手伝名こそうて其ことしむ倩

涙一画法の要等と極ノ其業を専て画本とあり已法蔵の

物とすて皆が為世こよ其業の力とめ多数ざるなん

皆此程巧よめる多くの涙世淫師ヨ引きくおいあらんとそ

う板刻の画よ名とひされいかく高き業ぐ画きの称ある

ことき神伝の宗もあるべしつくしく

門人よ西雅　皎天斎　仮称　酢屋平助

此人名とあなうなかるく世よまぐれ生涯と国郷て

国立国会図書館　燕石十種. 第25-26冊　わ081-10

ガラス使用

修ら其後歸て世ゝ遠せる画ものみれども人そこゝろ
らびし古来かゝるおのが世ゝ修ごゝろもの多くへ世人
多くは見と絶て再ときる事なめ支歌をもきゝすや

○毛詩圖譜 欧天香国雛画 刻本世ゝ伝まてう

守国華繪本

繪未通宝志 繪本直指宝

同 写宝袋 同 鶯宿梅

同 故支後 同 唐訓蒙図會

同 同

○雛屋立圃

野ゝ口氏 称雛屋 俗称紅屋庄右ヱ門 京師人

初名親重 明暦ノ比ノ人 寛文中没セリ

立圃ハ書画ヲ能シ俳諧ヲ好ム風流ノ一奇人ニシテ画ヲ法
氏ノ門ヨリ 元和寛永正保慶安承応明暦ノ方法寛文没ス 研セ
師中川喜雲ノ筆意ヲ以テ俗世活ト云ル画
ル多クハ立圃ヨリ伝ヘシ歟滑稽ノ雛屋立圃ハ画ヲヨク承
上リ行成ノ画ヲ立圃也 松考追考

○蒔繪師源三郎 元禄比ノ人

俗称 居 号

立圃ノ傳諸書ニ出ス人ノ知ル所ナレハ爰ニ略ス

国立国会図書館　燕石十種. 第25-26冊　わ081-10

ガラス使用

五字蛇足より誤記者はアマクアリテ牧華ニイトマアラズ

辞世自画元禄三年の刻本も此名のうち西籟が化の後書きしるせるからさびといふもおろかなり此人の画もの 従追考

○人倫訓蒙図彙 源常師画

名ハ昌信 号雪閧 一号信天翁

高田敬甫門人大坂の春画の名人也又印本の画本多く遊女ぶり

○月圃丹下 天明比没ス七十七才

俗称 浪花人也江州ノ産

描ける丹下彩色の春画の大巻物ともしかめもあり

○羽川珍重 享保中 江戸人

沖信 川人ノ 藤永門人加羽川ト有り

谷中感応寺の天井に詰王人ハ羽川藤永と画名あり

享保の比の浮世絵師なり芝居絵のきぬ 従追考

浮世絵くさのきぬ 三馬曰珍重門人ノ羽川松元あり

聖村治兵衛 刻板の浮世絵

○下河辺拾水 天明比の人

俗称 居京師人也 号

此人物絵多の画ひとしく浮世の上もの極彩の画本多し

祐信寺島ノ刻本の筆ニ似ルトイヘドモ大ニ劣あり

増補頭書訓蒙図彙 十冊

国立国会図書館　燕石十種. 第25-26冊　わ081-10

ガラス使用

俗称中ありま　天明四年板　洛西立
俗称ゑしま　日　眉画下の辺拾水子トアリ

其他多し　年久しの由名をとゞめられ追考正

○長谷川長春　天和貞享比ノ人

俗称　京師ノ人　号

京師の浮世画師なり好色旅日記よその長谷川吉岡が筆ならまいとそうかさ人のもう四時は大坂も長谷川典之丞とあり

見ハ雪舟の末孫と云　追考

○吉田半兵衛　貞享中ノ人

俗称　居京師ノ人ナルカ　号　姓氏共ニ未詳

無色軒の序にこゝまでの山の岩ほしこねと色通りのハ吉原結びのもとまりとゝろ〳〵あるハそげぐさのほき思ひとものそきわるものそうそうなり染めそくハれば師宣日なの人をうる長谷川長云日なの浮世絵なるべし好色旅日記よ谷川吉田とのきしとを通ハ其他流りの人とおもう

好色訓蒙図彙　貞享三年ノ板　画師吉田半兵衛下有り

其后江戸にて再板せしハ師宣の画なり其后板刻せしハ祐信也号と見ゆ訓蒙といふ

国立国会図書館　燕石十種. 第25-26冊　わ081-10

ガラス使用

次肩上要ル記ス画名都テ外ニ之ヲ出ス

○近藤清春　正徳　享保ノ比ノ人ニシテ

俗称　助五郎　居住　江戸産也

近藤助五郎清春ト画名ヲ誌シ金本ホホヲ多クカク

三馬按清春ハ吉原細見記ニ芝居狂言本等ニ自筆画ヲ出ス

開板ヨリ要ク列ヲ記ス

○鳥居清長　宝暦　明和　安永　天明　寛政　享和　文化年中没ス　行年

俗称市之助　一説新助　関氏　江戸産也　木挽木町一町目住ス

当所市之助清長ハ鳥居三代目清満ノ門人ニシテ世ノ名ヲ高ク江戸絵画ノ祖ト云ヘシ姫美川ノ記ニ昔画ノ風俗ヲ写シ画ルト

云ヘシテ一家ヲナセリ師清満ノ実ヲ画ヲ不学姑ク芝居看板画ヲ

（ハゞれバ）

（てかワリ）

繪ヨリ彩色摺画ヲ浮世絵人物ヲモ多ク描ケリ彫刻ヨリ好筆ヲ

ヲ遺シヲル其一二ヲ左ニ記ス

繪本物見ノ園　三冊　月　月　月

繪本今世人ノ好ミヲ写シ墨ヲ

鳥居氏

元祖清信　俗称　庄兵衛　住居　雑司ヶ谷ノ比ノ人

清信男　清倍　俗称　住居　元禄　享保ノ比ノ人　兄早世

三馬云元禄十年板好色大福帳五冊画師ノ名有リ

庄兵衛ハ元祖清信ノ俗称也鳥居庄兵衛清信下皆々ル画本多シ

国立国会図書館　燕石十種. 第25-26冊　わ081-10

ガラス使用

三代目 清満 俗称 半二 門人 清経 俗称 住居
芳町 三味線師
寿早世

四代目門人 清長 俗称 関新助 通比 錦画彩色ノ名手也

清長ハ江戸画ノ祖トモイヘ始美川ノ昔画ノ俗ありしが中比ヨリ画ノ書カヘ也最後ニハ江戸会所好ノ画看板ハ今杉鳥居ノ画ト清満清信清経トモ一枚絵草双紙ヲカケリ

清満実子 画不学和泉町ニ住ス 後宿ヤ淀也

五代目 清峯 後至天保今 清満ト改ム清長門人也實ハ寛政ヨリ享和文化文政今至天保ニ住居和泉町

三代目清満の実子ハ浮世画ヲ不画一ト雖後宿屋ヲ業ニシテ和泉町ニ住ス仍之姑ク看板画ヲ相続セリ其後宿ヤノ跡有清長門人ト清峯と名ノル今三代目清満と改テ三芝居昔附画看板ヲ画リ是則三代目清満ガ為ニハ実ノ孫ニ

清信門人 清重 小伝馬町 市川三升似顔画之上手

清忠 洋沢町角 彩色浮世画カキ

清長門人 清勝 高砂町

清次 日

△清峯ハ文化の始ヨリ文政の始迄凡八九年のうち錦繪草双紙 合巻ト云後表紙ノ三十丁物文化三四年比ヨリ専流行ノ 敵討世話もの画凡百余人ヲ描ケルガ如シ清峯没後ハ清長ノ画ヲ学ビ看板昔附画ヲ画ケリ清満と改テ板下画ハ悪ク止ル

△鳥居流の絵ハ江戸大芝居看板昔附ト画キテ一流ヲナス今狂画凡ソ百枚古キヲ双紙ヲ狂言ヲ云ヒ出シテ鳥居流ノ絵ヲ得ヲ称ス尊足ト云ク歌役ノ目ヲ突ヲ云ノ如クヨク画ク元祖清信ノ比ヨリ好ミテ画ルヨシノ如ク一芝居看板画ハ多ク古実ヲ画ルヲ以テ也 返ル別記ヨリ

△此鳥居氏ノ系図ハ類考ヲ附録ト大同小異アレド姑ク三馬ノ言ヲ以テ正トス

国立国会図書館　燕石十種. 第25-26冊　わ081-10

ガラス使用

○奥村政信　享保ノ比

俗称　本屋　奥村源六　江戸通塩町ニ住ス　一本ニ油町
　　　　　　　　　　　　呑肆ヒ
　　　　　　　　　　　　おやは絵師トスルモ非
号　文角

芳日堂　丹鳥斎

文角政信ハ自ラ日本絵師トカケリ朱ヲ以テ軟筆ノ印ト用ヒ漆画ヲ
モ多シ鐘馗ノ画ヲ能クス紙ニ墨ヲ以テ描キ仮名ヲ書ケリ俗ニ浮注トイヘリ名
所甚外牧狩ノ図等我十歳ノ頃ヨリ見ル所ヲ写ス事ヒサシ大方浅ク紅画ノ姿ヲ
写ス事ヒサシ大方浅ク紅画ノ姿

○奥村文志政房　一枝法名玄秋ともあり

○西村重長　享保ノ比
俗称　居通油町

○石川豊信　宝暦ノ人
俗称　糠屋七兵衛
西村重長門人也

宝暦の始ノ比紅絵を学此人一生倡つ酒楼に在ることを好く画もまた女の風俗を写すこと数種あり

旅人宿小傳馬丁住ス

○鈴木春信　明和比ノ人也
俗称　居住江戸産也
号湖龍斎

錦絵美人画を名あり一時の閨人なり吾妻錦絵と称せる祖と云画本山姥の云画多くは春信の筆也

の表紙を始めとし袋入なり○明和のはじめより吾妻錦絵と画き出して今世に行はるゝ大小の摺物大イに流行して其人物美しく今の絵画とかはりて云ふ計なし大抵画師なり行ぬ所なの形を画くも御んやと

国立国会図書館　燕石十種. 第25-26冊　わ081-10

ガラス使用

其志のやさしく明和六年の比湯島天神の泉石は矢数俳
諧一ばは二人の巫女美めきそひて詠むる名を奉額おく
ことを又谷中宝珠稲荷の華表に題せる娘姿の女と錦画よ
く似て仁事欠娘お夏の姿と錦画よく似てきて世人大ひによろ
こべり以上浮世画類考

小布施画 春の雪 春の友 武の林 春信字画也

（蛇足ナリ可削）
△なるもう（同上）△版画二年も一ばの老もう（同上）△版画のおふくと云ふ俗をもう

錦絵伝説錦 日光名所 日光名所八千代ま

日 浮世袋 日 春の錦 右春信まもう

三馬抱さいく未校本所七不思議にて二代目春信となる説年長崎に至り
葉画をよびて再び彫刻の鏡画のもの多別紀もうせり

○ 懐月堂

俗称源七 号安慶

宝永四年（四）の比（三）四月奥女中の図一件を生写彩画の
時其筆の大胆滑稽なるを見れば此時也
（享保中の人）△世々伝ふる姓名住もうさず

事もこのこと以上考過考

○ 琵江

俗称

宝暦明和の比元禄宝永浮世絵師と
ひとの画もう職人その画本数

以上類考追考

○川枝豊信　享保中ノ人

俗称

享保十六年の板　訶禄壮観　京師ノ人也

○阿里

享保中の名画あり　山脇氏の姨なり　異伝ハ公世子孫の名

国立国会図書館　燕石十種. 第25-26冊　わ081-10

ガラス使用

○富川房信　年間

俗称　山本九左エ門　大傳馬町二丁目ニ住ス繪双紙問屋ヘ

吟雪ト云

錦繪双紙のみを出せり拙き方なり数考　△

硯世翁曰富川房信ハ大傳馬町二丁目山本九左ヱ門と云繪双紙問屋の主人なりて家おとりて浅草画師なりし房信のみと云ふ事なり兄弟三人共に筆を執りし山本松本と称して業とせり又娘二人ありて九左ヱ門亡き後ハ店を閉ぢて貧窮板行許りを渡世とせり　△按ニ山本長兵衛ハ東接細町

○一筆斎文調

俗称

住居　亀井町

狂歌師　頭光（ツムリノ）ナリ

文調ハ男女風俗の流行を画きあらわし拙き役者画も少けり拙き方なれども板下画ハ出せり

類考附録ニ曰文調ハ役者画の上手ニ代目八百蔵の弟とぞ俗ニ多しと有り

拙系

国立国会図書館　燕石十種. 第25-26冊　わ081-10

ガラス使用

○ 柳文朝　　年中ノ人

俗称　　住居 通油町南新通

文朝ハ狩野流の画と雖ども浮世画とりわけ俳画の上手なり

史つまびらかならず二代目大谷十丁れ仙画の上手なり

三馬按柳文朝門人ニて文康あり俗称安五郎人呼て文康

安と云光かゝて今ものこれり 文政元甲寅年 三馬ら序入なり

深川冥賀寺に碑あり今二代目柳文朝ハ尾張町の辺に居住たと

云ふ異版の仕入おもどに画名ども文化文政の比し

○ 鳥山石燕　　年中

俗称　　住居

号　豊房

鳥山石燕ハ一時の名人なり浮世絵あまた出せり委き伝逸考

へ〻浮世絵考 三扁近十五冊

水滸画傳　　三冊

○ 細田栄之　　年中ノ人

俗称　細田氏　　始深川町 後本石割下水 住

姓　藤原　時富　　号　鳥文斎

天明より寛政の頃浮世絵の風俗と雖ども錦絵にて彩画ども人仕

堵画ども世に行るゝ多し就中始ハ筆を正く楷書流の筆意

と見んてゝ彩色淡多し

門人 栄理　栄昌

其外多くあり

国立国会図書館　燕石十種. 第25-26冊　わ081-10

ガラス使用

○湖龍齋

俗称 磯田庄兵衛　住居両国薬研堀

俗称 倉橋寿平　住居小石川春日町

俗称 [illegible]　居江戸下谷

号 東洲斎

寛法橋いたん

浮世絵を能く東洲斎門下の写法と画名を得り法橋となりて
より板下絵をうく　小川町　古屋家の浪人にし

抱え浮絵と細ぐくつぎ古来の花女画みと代名づき表具
一俗に柱うくとこまんのめくりおくる法等に出るも
流りセーものなり〳〵

○写楽

三馬之傳ずま年金行んノミ

五代目白猿　幸四郎　后京十郎ト改　半四郎　菊之丞　富十郎

廣治　助高郎　鬼治　仲蔵の形とまま男女画出セーし

○惠川春町

春町ハ鳥山石燕の門人なり自画作の青本有り（多くは五枚つゞ俵）小石川春日町ヨリ居所ヲ転ジ後川吉章名ヲ改ム（此ヲ以テ考ルニ）

三馬抱二代目惠川春町と唱ふ画工あしきを幸改て戎

国立国会図書館　燕石十種. 第25-26冊　わ081-10

ガラス使用

目哥麿とある吾町哥麿ニ示石燕の門人なり

○窪俊満　年中没ス

俗称　居住　亀井町

尚左堂ト云

俊満ニ壮欵と称し画と北尾重政よりまなび北尾ニ学ぶ壮欵ニ
拠而後写真拠の画ふめるゆえなり

三馬云俊満戯化あり化名南陀伽紫蘭ト号す

青楊油汚　玉蜀黍籠　雑ト名ル小冊其他多数紙四五種あり

○春湖　明和　安永　天明　寛政　享和　文化　文政

俗称　吉左ニ門

後俊朝ト改　号吉左堂

鳥居清長の筆意をよく摩ス

三馬云春潮浪世話を摩して後俊朝ト改む吉左衛ト号

文政四辛巳年今存ス長寿ニ而後ニ別記録ス

○珠崔府　年暦　姓氏未詳

俗称

居

○歌舞妓堂　年中ノ人

俗称

居住

国立国会図書館　燕石十種. 第25-26冊　わ081-10

ガラス使用

後考仰希のこと画されぬ抔遺ハ半氣そろひてそおこあいまず

○宮川長春

正徳比人享保中

俗称

江戸産ニ

号

菱川流の画也

宮川重渓曰尾張玉川村人正徳の頃江府に来り人慕菱川氏之風の也古来の粉本の下絵そのまゝ之を模写と一向そこゝろす宮川氏称を改め俗称多勢そ拂ひそ一家そ立て菱川氏そいまだせざるの事ゆへ父と共に名を高くせんと欲して初ハ菱川氏と書しが大いに一力と投抔して粉本氏と書く弟へ勝ちろんかわり人ニ人きろこころそ依て書るゐ宅号氏某ハ劇而るり其ほ等を添て宮屋何某のかの宮川と上悔る氏られぞ俗玉川と号そ

○宮川春水

俗称　姓勝宮川ト改

大和繪師トそり芳町住

享保比人

勝川
春水
俗称益四郎　深川
後芳町住　門人
莘水

門人
春章

春童　孫春道号葉徳斎
又勝宮川氏トモ

○勝川春章

是ハ明和の比歌舞妓役者の似顔と画をそしめとす其ころ人形町林屋七蔦つと云つる芝の方ゟ富岳しく画名もなくろうしかバ林屋の請取判ほ垂のうちほ林こいつる文字あり一と押てやりたり左こ人ハ後こ垂屋こ

国立国会図書館　燕石十種. 第25-26冊　わ081-10

ガラス使用

こひする春好と小垂といひき武者絵をもよく画き

寛政四年十二月八日
死ス浅草西福寺ニ
葬ル

三馬按春章号旭朗斎一号雨爾俗称祐助
書画ともによく門人数多あり得及重岡等
委ク別記ニあり

○小松屋　俗名三右衛門
後百亀と改ム

明和の比大小の摺もの絵多く出ス西川氏の
筆意をまなびて春画をもよくし肉ぶとんぬくめ夜具ものも
本あり元旭町の薬舗ニ

活東子ニ此二人本編ニモレクレバ類考ヨリ抄出テ書加ヘリ

勝川春英　羊中汲ス

俗称

号九徳斎　居新和泉町彩通

姓氏家門ハ詳ならず武者絵ものをよくす享和の比より錦絵多く行はれ始めし頃より役者芝居の看板画をよくかけり世に名
高し後ハ一家の画風を変じ美人画を専ら画けり文政の末ごろまで存命ス

活東子識

不文見ニ若シクテイサカ川ナホシンレト
摂津ノ意ニ背クヨウナ
極ク僅ノヨウナ人ハ
ナモトノマニスヘシ

国立国会図書館　燕石十種. 第25-26冊　わ081-10

ガラス使用

和代豊国ト此画風ヲ学ビテ
後年ヲ窺ヒ 緒
日 日
日 日
右ノ花十二候続ノ屏風ヲ始メ場末酒
サカリノ図ヲ多クノコセリ
岡田九迪亦イマ健在ニシテ専ラ
山田案ヲ通ジテ屏風絵ヲ
ヨクシ別ニ死人画法ヲ奇巧アリシガ今ハ
ヤ彩ラーキ画ヲ立ヒノ名ヲ
ヲ継ケリ又後更ニ

門人
春亭　春扇
春玉　春青
春行　春仁　役者画ヲ　春和
春陽　春久
春琳

○勝川春好　年中ノ人

俗称　住居　長谷川町住人

号
小壺ト云リ
本堂門人ニテ浮世画役者画ヲ一壺ノ仰ヲ用ヒ一家ヲ立テ

春徳　俗称千太郎　十行者　武者画ヲリ
春洞　俗称　改花　大路ヲ左ヲ学ビ画ク　後達山采ト云　武者画ヲリ　町住後亡ス
春雪　俗称
春山

国立国会図書館　燕石十種. 第25-26冊　わ081-10

ガラス使用

活東子云
類考ニ早世トアリ
故ニ三馬乃如キ云
ヘルナリ

三馬云ヲ好学世ニあしく学ぶこと
石峯麻布古稲荷ニ通世して立ニ
白猿の肖像ヲ左手ニて画ることあり甚ダ奇白猿一
○前ニ出ル二代目勝川春好春扇ヲ云ヒ記ス

○勝川春亭

俗称　寛政享和文化ノ間人
居　和泉町住
号

春英の門人也初名ハ春英と云ヒ浮世画ヲ
く画り後ニ二三変あり壮年ニして病のため業ヲ廃して
城之氏可姓

抱ニ春亭ハ春英が門ニ世ニ発市ヲ名のる故
紙おしき名目ハのお笑ヒ浮世絵の画風ヲ画て役者絵
落ち歌川風ニ学べり

○勝川春扇

享和ヨリ文化文政ニテ没ス

俗称　清治郎　居　始葛飾ニ　後芝仲ウ町ニ移ル　神田ニ移ル
号
始春琳ト云　琳門人

始の雪山堤等琳ニ学ぶしが後ニ春英ニ学ぶ
東西幕南北ト云作ヲ浮世絵ニ専ラ
始て多双紙絵下画ヲ作ル　板えを神明前山田屋ニ
和ての板えなり　大ニ行ル

国立国会図書館　燕石十種. 第25-26冊　わ081-10

ガラス使用

一時ハ浮世絵板画ヲ最下劣ノ物ノ如ク卑シミ
蔑ミ彼是ト百方ヘンタウヲ加ヘラレ利板ヨリモ多ク高価ニ
白町組ニ多ク行ハレ僅ノ少人ヲ喜ハシ
繰返シ一二枚画ノ后年ヲ経テ後ニ
シ極下画ト止メテ芝神明町ヨリ来リシ妻ハ風流ノ好ミニテ
ノ化ト云ヒ数年ヲ経テ后月之ヲ知ル人
描ク処ノ浦絵後ハ東里山人ノ伝ヲ深ク学ビ云ヒ一冊
綾山ノ代物ハ二冊五冊アリ
石面ニ彫ル処ノ板ヲ画トシテ再ビ再ビ画ク
強ヒテ云ヒシノ流ノ始メヨリ十年ニ
せうの人、扇里と云ものの
春川栄山
俗称
号
年月
居

○春川五七

文化のまつり京師より江戸に来り
来泽京山栄八坂の四ツに住ス
此も役者のまつり絵と
ちう二三種ニ有之其后画名ヲ

○北尾重政　　年中　没ス

俗称　左助　　居住　初大伝馬町弐丁目
　　後根岸大塚村ニ移ス

本姓　北畠

号　紅翠斎

　　江戸ノ産也

　　一号花盛舟

北尾重政ハ書画ヲ善ス　鈴中　板下ニ於
一首法帖ノ類多ク書画共ニ之ヲ人屓ノ
板下ヲ改メ自己ノ名ヲ署シ又ハ自己ノ筆
耕ハ甚ダ之ヲ秘ス　故ニ其ノ真蹟ノ
ものハ少シ

北斎ノ如ク善画ト雖ドモ其ノ真蹟ハ
絶ヘテ多カラス

の写真或ハ画軍談抜書或ハ筆ニ描画双
紙の活ヒ多シ一名ヲ以テ一人ト云ヘリ

絵本　　日　日　日　日　日

　　　　日　日　日　日　日

　　参の魁　　栄舟

文政の始の年
没年二代目北尾重政と名を称ス老ハ天九

国立国会図書館　燕石十種. 第25-26冊　わ081-10

ガラス使用

○北尾政演　重政門人　享和中ノ人文化中没ス
俗称　喜多川氏　俗称　三次郎
姓岩瀬　本姓津田名藏　字伯慶
号蘭洲ト云　入号碌世老人
号山東庵　京傳
幼名喜三郎　江戸浅草川本町ニ住ス
本田四方ニ墓碑ヲ立ツ
浅草幸龍寺ニ墓碑アリ　家ヲ売ル人ノ記

山東京傳ノ書画ニ就テ我ガ知ル所ヲ左ニ記ス
ありふれて多からぬ

○北尾政美　重政門人　文化中没
俗称　三次郎　和泉屋市兵衛ト称ス
姓　秋形氏　号杉皐
別号蕙斎　紹真ト改ム

政美ノ世ノ名人ニ相親シキ者ノ事ヲ始メ
一番トシテ人ノ事蹟ノ絵画ヲ多ク一ト眼ニ
画ヨキ事ヲ工風シテ大ニ世人ニ

国立国会図書館　燕石十種. 第25-26冊　わ081-10
ガラス使用

神田明神下住江戸絵師
春英ト云ヘル絵ヲ本トシテ
モヨク描ケ本ハ此人ノ筆意
彩色物ノ画ヲ本ト大ニ流行
墨画ニ
蕙斎墨画
佐藤
鄰所 信ヲ本
此外刻本多ク
浅草誓願寺前ニ
住シテ板行多シ
晩年ハ
下谷ニ住ス

（人物ヲ数十図ヲ描ケル六冊）
墨画花
佐藤画姪

誓願寺前ニ住シ
後ニ
浅草ノ蔵中ニ
住ス
晩年ハ
下谷ニ住ス

○喜多川哥麿
俗称 勇助
号紫屋 居
江戸ノ産ニ
（始メ吉原揚屋町ニ住ス
又芝神明前ニ住ス）
享和中没
モト絵ハ石 是房ノ門ニ入テ物故実ノ画ヲ
学ヒ後一家トナリテ浮世絵中興始祖ノ名人ト

国立国会図書館　燕石十種. 第25-26冊　わ081-10
ガラス使用

なれる男女の風俗を写せる画
の人ゝ婦女のむすめと称する自ら生産の業
をなしたる銭場繁昌の有様（元より男女貴賤
の区あり）を画きたる名を称するい拙き業し
かで優の姿えと俗人
浮世絵一流と云ふ名を表したるとゝ
ゝもの甚だ遠ざ其名所門に掛ける一家傑こ
とく

周よ云ふ女婦の人法
名と称ふ婦画とおもふ高敏もう哥麿が

浮世絵の名人
とおもう此人浅草のそ
婆法と世もう云ますんおもやおきくの
三人物りんのごあり法ん大岡紀の品とおもて始
絵のと文もうそな器のるりて物茶にて（獣舎）が
出てるしもふ病死をおもむ
文化の中葉に歌麿と称する此人
浮世絵をめし一時あるえ江戸の産物しう
業ひと指申にのこと東記出刑かる絵に
社事ふそ江戸一頃高豊国の後

国立国会図書館　燕石十種. 第25-26冊　わ081-10

ガラス使用

画ものうりの人云々
江戸名人哥麿その
初々人物もの
後白画の
哥麿が
汲古後
云々
哥麿云々
及川の後と出
後うき噺のやく

一世一代おさん長兵衛の
利てやまん長兵衛の
僕とも
逃出もの

憲く噺噺くさ
哥麿に門人多く海世後の
写もの多く行酒宴の形も
汲古とも
海世後考曰姓の哥麿
綾双紙同画よ寛政せし
吉原年中行事
後本百千多
日出撰
日

さいしき摺 五冊
十四全一九 校了
校了
校了

国立国会図書館　燕石十種. 第25-26冊　わ081-10

ガラス使用

月
日

其他枚挙ニ遑アラス

哥麿門人

二代目
哥麿　俗称

門人
雪麿　俗称一小石川文化中没　水道端ニ居ス　画ヲ北尾重政ニ学ヒ後北尾政演ト改ム　小川ト改ム　歌川ト改ム　北尾ト改ム　名ヲ改メシ

式麿　俗称　下谷桜稲荷前ニ居ス　錦絵アリ

秀麿　俗称

門人
蔦麿　寛政ノ頃ヨリ文化文政ノ人一流ヲ立ツ初下谷ニ住ス　後ニ名ヲ改メ画ヲ改ム

政麿　文化ヨリ天保ノ比ノ人

歌麿ハ吉原年中行事大ニ流行セシ比若干迄含一九ノ云ヒ系ノ多ヲ画キシヨリ久シクアマヨリ知レテ後ニ歌麿ハ絵ヨリモ美人ヲ画クヲ以テ名アリシトイヘトモ実ハ美人ヲ画クヨリモ美人ヲ以テ歌麿ヲ画カシメシ人ト云ヘキカ故ニ歌麿ヲ画ケハ美人ニ似ルトイヘリ

不コトシク今ヨリ見レハ没骨ノ絵ヤ紙ヲ揉ミ絵ノ紙ヲ画ケルアリ

歌麿ヒ（必ズ）病死ヲヘシトテ各地ヨリ名医ヲ招キ治療ヲ加ヘシカトモ其効ナク終ニ死ス

○歌川豊春　俗称　庄三郎　号　一珍　画

但馬産ト云　安永ヨリ天明　寛政　享和　文化ノ間享年七十余ニテ没ス　始芝三島丁後日本橋住　居落髪シテ東坂田町ニ住ス　江戸ノ産ナリ

国立国会図書館　燕石十種. 第25-26冊　わ081-10

ガラス使用

豊春 多し　門人あり　石流水の風俗を
画き一家となり摺芝居の番板画と呼び彩
色多く夥し宝暦の比日光山神供絵こと始めて
版を彫りそめ人物世絵ものき
帰絵もと多く彩色画とく横
画も多くかき出せり宝暦のころ世絵を始
豊廣　門人有り別にシルス
七右エ門　門人多し別にシルス
豊国　中村　槙丁川岸に住ス　門人多し別にシルス
豊久　堺丁に住ス　芝居狂言本ヲカク
豊丸　錦画アリ　但上ノ燈籠ノ画に妙ヲ得タリ

豊春　門人
豊廣
七右エ門

石年豊春ト名ノリシモノアリ血脈ノ者カ
文政ノハシメナリシ其后ナシ京橋浪花三丁目
画カス
本所の松蔵前に住ス

摺ること上手結婚の摺番板そのまゝにて
く彫刻せられ一枚毎色をかきしこと
其版春英も皆よく次て芳ら
ハ多くまゝよろしきもの
○歌川豊廣　寛政ノ末ヨリ文政十一年ノ比没ス
俗称　芝居門前
号　一竜斎
江戸産也

国立国会図書館　燕石十種. 第25-26冊　わ081-10
ガラス使用

始め豊春の門人なり春に倣ふ事甚し
さんと号せしなども一時画風とす事
雪舟或ハ明画の筋あれども
の画風とそふそまめの筆法を模写して法
交画そこゝもなきもの多し後改
現存南仙笑楚満人作も学よりめり優れ教授の画
画の事力等巧を尽せ共の画工と並ぶ者
移色画工ぬるもの一人多し

歌川豊広

実子
豊清

俗称 金兵衛 号 高雅

生涯役者画ヲカヽス 浮世絵師ト云ヘシ
移色摺江戸名所福笑書
豊清ハ画ヲ善ス錦画 草双紙 読本二三アリ

女子 他ニ嫁ス

娘実子
豊熊

俗称 豊広為ニ 実ノ強ナリ

門人

廣昌

廣重

俗称 八代洲川岸住 安藤徳右衛門

浪洲治洋筆大半其錦画二三種アリ

廣恒

廣政

文政ノ末ヨリ天保ノ今専画ク 草双紙多シ

国立国会図書館　燕石十種. 第25-26冊　わ081-10

ガラス使用

○歌川豊国　寛政 享和 文化 文政 年中没ス

俗称 熊吉　居 始芝三島町　芳町　堀江町
号 一陽斎　上槙町川岸油屋住ス
江戸芝三島町ノ産也
人形師ヲ業トスル人男

始メ豊春ノ門人ナリ后英一蝶ノ画風ヲ学ヒ特ニ
其ノ妙ヲ得タリト称セラル世俗ノ画ト称スル
春ハ一家ノ筆法ヲ以テ豊国ノ風俗ヲ写シ一蝶ノ画風ヲ
学ヒ豊国ノ画ノ始メテノ
枝ヲ分チ神明ノ四季松竹ヤ京都(京都市)ノ名所ヲ描キ
美人絵ニ於テハ古今ノ独歩ト称スル中興ノ祖トス

多双紙合巻読本挿画数百部世ニ行ハレタリ
一流画風ヲ立テ門人殊ニ多ク文政中没ス年
五十三

一陽斎豊国――実ヲ直次郎ト称ス
　俗称 豊吉
　初名国
○一竜斎豊国　不学画
　板本師

歌川豊重　本郷春木町ニ住ス
　俗称 別紀ニユル
　俗称 鶴屋　カワラケ町
　錦画双紙アリ　田丸町
　ヒモノ町芝口二丁目

二代目豊国門ニ入
国富　錦画アリ
国兼　摺画双紙
　有ニ三種ヲ不ヲ詳ズ

国景
国諒

初代豊国門ニ入
国政　一名高
国満
国長
国九
国次　一名高

俗称 幸蔵　ギンザ四丁目
錦画草双紙アリ

俗称 別記ニユル

俗称 別記ニユル

国立国会図書館　燕石十種. 第25-26冊　わ081-10

ガラス使用

国安　俗称　別記ニアリ

国貞　俗称　別記ニアリ

国直　俗称　別記ニアリ

国信　俗称　作名　志満山人ト云
画作ノ草双紙多シ

国芳　俗称　別記ニアリ

国周　俗称　号世
繪アリ

国虎　俗称桑蔵
草双紙錦画アリ多クハ出ス

国宗　国長門人
俗称
扇画有三種

国照　俗称　恵之門
錦絵アリ三種アリ

国房　俗称
錦画　三種アリヨミ本モアリ

国登女　俗称錦画アリ
筆多クハ極下画名出サズ

一陽斎筆画本彩色摺
画手本ニ
年玉筆

似顔猶警古
役者
合鏡　〃　世手柄

時世姿
役者
三階奥

此人の伝多くハ詳ならず姑く
文化文政の号此人の似顔画大イニ行ハルヽ事ハ
豊国筆塚碑石　柳島妙見境内ニアリ
或人曰豊国画ハ其肯法豊広ニ不及ト雖モ遠ク画法芳ク
云ヒ流俗ノ眼ヲヨロコバシムル一妙アリ時ニ得タリ我場流行ノ時

国立国会図書館　燕石十種. 第25-26冊　わ081-10

ガラス使用

二逢シモノナリ后年迄春画ハ不画ルガ淡故ニ三年前ヨリ
救部ノ春画ヲ出セリ

歌川国政

俗称 甚助
号 一寿斎

寛政ノ末ヨリ享和文化ノ始ノ人
奥 會津ノ産
居 始メ芳町 堀江町
后 市ヶ谷左内坂ニ住ス

豊国ノ門人ナリ豊国ノ二代目ヲ汝下云画
ルガ后ニハ改メ共板下ヲモ
ト業トシ生優芝居ヲ始メ役者ノ一座ノ
相言トスル画ヲ画トセリ依テ優ノ面ヲ似セテ画ク
甚ダヨリ細写ノミ豊国ト亜ヒ
ヨリ優ヲモッパラ画左ト

お祭りした芸者に招きてかく
面部の癖を似せるを豊国の
癒てつかんとす武は中ニ富ニ
実名その似顔を画く其人例ヨ主が
えるがゆゑ其ヨリ似顔ヨリ
ニ画扇団扇ヲ多く板下ヲ
始めて面部の似ヲ
不許の利潤を
注を画一む
画くらうと

其似顔多く
豊国が
一時風行

国立国会図書館　燕石十種. 第25-26冊　わ081-10

ガラス使用

一ト通り在世の名大ニ世ニ伝ハらる昨夏玉ちら
汝去画と汝ニ似セて世人ニ知ラるゝ多ハ世ニ
門人ありと云ニそ伝ハ
画ニ至ニ原ク不入学而独リ
得ニ工ニ而出ニ其ニ
学ニ於ル
海似ニ於ル画ニ似テ童ノ
不知

法橋玉山

俗称

別号　修徳　天明寛政享和文化ノ人没年

大坂ノ人ニ姓岩田

叙法橋

通世板刻ニ画ノ開祖ト
画風ニ多ク美画ノ画ニ多シ
事ニ
学ニ
画ニ
板刻ニ
京大坂ノ板刻画ハ悉ク
云ヘリ

繪本大閣記

唐土名所図會　自初編至七編　大二世ニ行レタリ

蕭牆童觀抄　勝レテ妙也

国立国会図書館　燕石十種. 第25-26冊　わ081-10

ガラス使用

三国妖狐傳
繪本 玉藻傳

月
月
月

其他牧拳主へる人等ゟ而ゟ而ゟ人多ゟ
二代目玉山修徳文化文政の比 江戸神田に住せし事
ゟ板剣の画いさぐさゟし 神田明神に石紅の亀を画
数ゟ神社玉山の画と雖多ゟ伝ふるもの也

法橋関月 天明寛政享和年中
俗称 大坂ノ人也
号 叙法橋 姓芦部

姓は月号舟下さつ人也 玉山が筆意を画法を
学び名称留雪と板剣ゟ仕ゟ

等月が実子舟 関牛天保中大坂に住ス

伊勢名所図会
山海名産図会

京師ノ人保元平治之兵乱源平盛衰記
等之名所図会ゟ画ゟ

法橋 中和 泄汎月時の人ゟ之も
東野 姓大原 大坂ノ人后奈良に住

国立国会図書館　燕石十種. 第25-26冊　わ081-10

ガラス使用

春暁斎
俗称　大坂ノ人也　居
号　姓　速見

剞板ク絵ハ傳来ト云ク画リ能ク法橋ヲ心ノ画
風ヲ学ビシ
画ハ平泉実記

日　拾冊

二代目春暁斎　年中ノ人
俗称
号

石春暁斎之弟ト傳ヘ画リ能ク法橋ヲ心ノ画
風ヲ学ビシ
画ハ平泉実記

日　拾冊

二代目春暁斎　年中ノ人
俗称
号

石春暁斎之弟ト傳ヘ画リ能ク法橋ヲ心ノ画
風ヲ学ビシ
画ハ平泉実記

日　拾冊

二代目春暁斎　年中ノ人
俗称　大坂ノ人

歌川国貞
俗称 岳亭 門人

姓

号 一雄 秋

天保四年ヨリ
英 一蝶

天化二年ノ比ヨリ天保ノ今至ル

居 本所五ツ目
石亀井戸ニ住

武蔵葛飾郡葛西領屋
三五渡亭
樹園

号アリ

国貞ハ本所五ツ目渡シ場ニ住ス
有リ 号ヲ遣リシト云 自ラ芳雪ノ後ト
称シテ後先生ヲ芳雪ト改ム

小浮書ヲ乞テ其号ヲ門人ノ称ス
シテ文化ノ始メヨリ双紙ノ極下ヲ画ク
年毎ニ著シク称ス 中村称ハ
切狂言於自傳兵衛渡し場川岸ヲ第二書目狂言
実国忠臣開出村三屋新吉原ノ狂言ヲ称ス乃チ
狂言ヲカハリ千本桜 古今マレナルアクリナリ

歌号 双紙大ニ行ハレテ
来ル 歌号ヲ標ス 東京忠姫メテノ作リ 其
うちハ初テ画ク 国貞始テノ画ナリ 是ヨリ
姉背山下ニ三ツ屋板
おとら ト一時ニ人気ヲ一ニ
画風 ハヤク其ヨリ
其ノ 芳雪ヲ学ヒ後一派ノ宗ヲ
シテ一時当谷ヲ慕ヒ師没シテ后ハ
自ラ一ト深世後改名仰
会老ヲ双紙ヲ出ス 大ハ二ツ折ヨリ 広画ヲ

の若い事也に南世の風俗と云ものを画別を云ひあらわす
門人多く委き伝ハ別記を法

緒平波光暮の富士　日
波光仙客早春古　日
日　日　日　日　日
日　日　日　日　日

其他枚挙ニ遑あらず

一雄舟　玉貞
　実子不画家
　女子　日実名
　　貞房　俗称　実双名ハ出せり
　　貞景　錦修ノ義ヲ出せり
　　貞国　俗称　双名ハ出せり
　　貞秀　俗称　双名ハ出せり　名吉　画本多ク出せり
　　貞幸　俗称　双名ハ出せり　画アリ

抱玉ハ玉貞ハ英一雄の画本を見るに度々
ハ玉貞と画名と本花押ハ英
一雄とハ違ひ有ハ好事家ハ
とう云人の門ニ入ハ名ハ
波光仙客の号ハ

国立国会図書館　燕石十種. 第25-26冊　わ081-10

ガラス使用

歌川国長

俗称 栃平 カオ

号 一雲斎

文化ノ末ヨリ文政二渡 四十余

居 芝口三丁目
后 新橋金六丁

江戸産

画ヲ其国ヨリ学ビ浮世絵ヲ能ヲナシ二三種ヲ
組上絵ヲ能ク細筆ニテ物語等ヲ画キ其
工風ヨロシキヲ得タリ浮画ト雖モ名所ノ絵等ハ
画家ヲ凌ク故ニ板下画ヲ描ク人ヲ抱ヘ
ト雖モ自筆ニテ音曲ヨロシキ浮画ヲ出シ
ヲ絶ス一寺人ト云ヘリ 桜川雪著 嘉永
一時ノ友人ナリ

歌川國丸

俗称

号 一国斎

五彩楼

竜尾 俳諧ノ名

文化ヨリ文政ノ末ニ渡ル年三十余

居 芝神明町二丁目ニ住ス
后 浮世小路ニ住ス

江戸産

蛾蝶庵

此人書画ヲ善クシ彩色モ宜キヲ得タリ画
姿ヨロシク美人ヲ画キ浮世絵全体ヲ画
世ニ多ク人物ヲ画法師ノ風ヲ学ビ守随ノ流
風ヲ慕ヒ狂名多クノ画ヲ描ク依テ俳諧ヲ好ミ
ニ人学ビ庵ノ号ヲ

国立国会図書館　燕石十種. 第25-26冊　わ081-10

ガラス使用

歌川国安

俗称　安之助

号　一鳳斎

初年より豊国の門人となり師の傍を離れず文化の始め頃迄と雖ども寛政の末年より錦絵にて西川安信と改めしより画風一変して豊国の筆意を学べり

門人　多吉

歌川国直

俗称　朝蔵

号　一烟斎

一寿亭庵

始め明画を学びしが北斎が画風を好みしが若年の比豊国の門人となる文化の末頃より双紙と出でり

（タリ三馬作画多シ）

其後狩画陰画陰影比較より豊国の画法を変じ来明画ヲモ好めの画戈を為る人なれば一派の画風と云ふべからず唯庸雑なり後天保の始めより双紙中おもと多くは寛政一派の土佐

居　始麹町ヨリ石ヶ谷ヘ移リ石田新町ニ住ス

伝濃ノ庵也

柳烟楼

文化ノ始ヨリ天保ニ至ル没年三十余

居　大門通　村松町又東本願寺ニ住ス

江戸ノ産

門人　安信　多吉

楊斎二代目の玉安と称するもの是なり柱刻を為す

国立国会図書館　燕石十種. 第25-26冊　わ081-10

ガラス使用

門人多し画く所板刻せられいまだ不載
因よ曰く門人よ毎毫ともに一ものあり和
漢宿の彦しまだ紙板を画ふとも
文化年中其法いまだ國芳ほどの
熟生のめく有て板刻ほどしたる
國芳が画風い伝る主今の
玉亜が筆ごとくのようにして画一が当時い
記筆の類と称こて画てこともの北斎の画
風と慕ふ玉亜が画風ほどりてまひめ

歌川国芳

俗称 孫三郎

号 一勇斎

文政ごり 天保ノ今ニ至ル

始白銀町二丁目辰
居 両国米沢町ニ住ス

江戸産也

豊国の門人多し文化ノ末画一二種出ルと雖ども
文政のおわり水滸傳百八人の
ひよろけれ孫悟空等年ニ
が画風と学び一派の筆法あり門人多し

抜ること小高ノ画風とも
画く相板彫の類多と称ふ

国立国会図書館　燕石十種. 第25-26冊　わ081-10

ガラス使用

菊飾為一

俗称　初名時次郎
　　後　鉄三郎

明和ノ生レ寛政ヨリ享和文化
文政天保ノ今ニ至ル

教号有改名左ニ記ス

江戸本所之産也

始め春章を学び勝川を号して勝川春朗と画名あり春章没して後二代目菱川宇理となり其比ハ狂歌摺物多く錦画アリ一派となる（堤等琳ノ画風ヲ慕フ）

三代目宗理トス名を数ヶ改せり寛政午の春宇理の一派の画法と云て小さき屏風数扇。（一統北辰妙見ヲ信ス故ニ北辰小扇ト云フ）

其比ハ東都ニ明画ノ凡大ニ行レ画心有モノハ唐画ヲ学ブ専流行ス流俗ニ従テ画風ヲ変ハ世ニ出ル時世（雷斗ノ画名ハ重信ニアル）北斎流と号し明画の筆法をもつて深世絵を始となん古今唐画の筆意を以て画と立風せしハ北斎を開祖とした者である

世上の画家（俗ニ云本画師）其画風を奇ともつて世俗ニもてはやされて門人多く三大よりもてはやせり一時多名の如きもれを法乗書を模ニ学ぶ事なれハ我他の法ハ絶ず学ぶ紳の画伯を板刻して名を時古師一の候下ニ列（叢春朗ノ比ハ役者ノ似顔画ヲ出セシより北斎ニ至テ錦画ノ板下ヲ不画狂歌摺物ヲ画ヲ多クカケリ錦画風マラスヲ以テヲトクノ北斎画風ヲ用ニ拠ル寺巧すりシ公画狂人ノ号ハ門人北寅ニアル黄ハ板下ヲカ、ス

専ら

国立国会図書館　燕石十種. 第25-26冊　わ081-10

ガラス使用

画狂人等師北斎と画名して雷名ある画風
独絶艸双幅の琴を弾ずる処を描ける絵像讃むの云
画と多くかきて世に行れ終に人丈よ
り大なる画を描き出せり
（北斎画人ヨミ本世に流行ス画法草双紙に似ヨラスヲ以テ
八荘子掛物ノ画ヲ名ケシ浅草ニ住ス
スデテ掛物画ハ絹画ニ似ガヲ貴ハ不云
貴ト云ハ時ニアラス後本画トテ分ニス春花園蔵書譜世俗称ス北斎字理
多く学ぶ所を色取尾形名古屋と始めうて宗坂
まれども必観る画象備てす板剤の密画よ
ぬとはなく世よ称ある故右衛の別本牧
華をへうして漫画と題して画る本と雷名ひな
世ある故為に漫画と題して画る本と雷名ひな
（始板元江戸角屋喜助すりしか改有テ
后尾張名古屋永楽屋東四郎蔵板トナル）
再名と
いう人よ講て物袋会義斗と改めうう前北斎義斗
とふ（元目北斎八本所ノ産ニシテ后ニ両国回向院ニテ大画錦袋ヲカケリ錦袋舎名ノ外画舎
ハ仲ノ町亀屋トカ称屋ニアリ大画八十六間四方十八畳四方名古屋ニテハ秋田出山ノ景ヲ
カケリ）
色とも文化の末つ人山水よ講ろ人て前山高高一
と改名ていう人よ院ありと追あり画よ本と
色ろ高よ板剤して数十冊と世よ行ふむ生
生涯の画日ハ画風と雖も達して神威ありな
好く序画士筆度くあり稀式の画仏ありまし

板剤画手本標目

北斎漫画（自初編至十三編）　柳金雛形

地文雛形

義斗画譜

国立国会図書館　燕石十種. 第25-26冊　わ081-10

ガラス使用

北斎画鏡
日　画叢
一筆　画譜
為一　画譜
北斎寫真画譜
画本枚数拳さへつくし候ゆゑ其一二を
爰にあらはすのみ世外に初る事多くゝ別記候
葛飾為一 ― 一斎 ― 北斎 ― 戴斗門人

女子　門人柳川重信雷斗妻
早世男子有為一実孫ニ
女子　他へ嫁ス画ニアラス
早世沖繩沖見ノ家ニ嫁ス

女子　栄女　画ヲ善ス父ニ随テ今専
画師ヲナス名手ナリ

辰政ト云ヒシ門人

辰斎 ― 雷斗（重信ト云別記） ― 雷洲　青山ニ住スヨシ本アリ
石釧板ノ紅毛画ヲヨクス

北斎ト号シテ門人

北馬　狂斎招牌多シ　別記ス
画ヲヨミ木枚十冊ヨリ有ケリ后一家ノ画風ヲナス
帰依ト云下谷ニスデ町ニ住ス

北寿　昇亭

北渓　拱斗

北岱　スリモノヨミ本多シ　浮世ニ住ス、

北鵞　スリモノヨミ本多シ　西国ヤゲンボリニ住ス、
後画山水ヲ専ラスリモノ多シ
別記ス
スリモノヨミ本多シ
毎板ニ住ス

国立国会図書館　燕石十種. 第25-26冊　わ081-10

ガラス使用

- 北嵩（芙蓉）
  - 本仁ニ住ス ヨミ本草双紙多シ
- 北雲（東南西）
  - 大工久五郎ト云リ スリモノ錦画二三種アリ
- 北泉（戴岳）
  - 別記ス ヨミ本ノ多クハ画本ナリ
- 北（斗圃楼）
  - 大坂ノ人 画譜アリ
- 北洲
  - 大坂ノ産 錦画ヨミ本アリ
- 北僊
  - 名古屋ノ産 画本ヲ出ス

其他数百人枚挙の暇なし 皆一技一能あるもの

傳曰 為一芸以上曲画と云ふ 誠に然り

カケリ中ニモ流ニテ画ヲスソヒカク画ハスクレテ妙シ 其ニテ画ク如ニ画ノ有ヲミテルハ彩色ヨリテ情深シ

其実ヲシルヘカラス 〇刻本ノ春画ヨロシカケリ一流ノ風アリテ情深シ

の工風とありて一流の妙を為すに至るもの 稀代の名人なり

倭漢の画法は素より前法自分宋明の筆意ありて尊きの画風なれども 其一家の筆法画体悪く美と云ふも 強ち云ふに足らず

狩野流ニテモ似テ似サルヲ画法ノ末下ス 画中不全ニテ画ヲナスヲ以テ善トス

故筆法画法の如き其前法を得て一流の筆をなすみ

国立国会図書館　燕石十種. 第25-26冊　わ081-10

ガラス使用

ねとせさる事いまうすると云う香具師の看板
画ける我物揃の看板 油画 薬画 よろづ
注文彩飾の工風と画き 判取の油壺定規
引きの奇巧ある一部の画法と記せるいも
物ずき他々より画を学ぶ門人 筆と学ぶ
室所 浪花いと悪く 毎の画風を学ぶ名を改
ばとへども つまるところぬかか
浪花発帖の法帖をうつして世よもるところなり
紅毛よりも画を需むること二三年こなる
数百枚と運ぶこと大ひよ板をして

号と称せられ天保の今まで三拾何年
筆法かも毫人ばいよ〳〵新奇を出さ
ずうを画 錦画を学く出さり 板元の心を
御注し肉筆彩色他よ倍れて之事なり 板本画法
多く世よ行るところなり 家と号 冊
を記し引よ百一首 其書を見ん
辰斎
俗称
号

居住

国立国会図書館　燕石十種. 第25-26冊　わ081-10

ガラス使用

扨初中本の摸本を画き
ひのつくし桂舎探雨著月
多門人の筆し梅画摸本ハ不画

義斗　文化文政ノ人
俗称　住薗　遠藤氏　小笠原浪人
姓ノ　北泉　居　麹町平川天神ヨリアリシカ
後ニ改ム
大北斎ト云カクトコロノモノ
ヨリ仰スルヲ以テシ

山高のつくり名を講
斗ともに画風師の筆法と
志給ふもをれい名知浪花の刻本と
画り

武者繪　松亭浪花　繪本

二代目
義斗画譜　　日

小枝雛形

其他摸本数七八種あり松舎を
歸府北馬　文紀　文政比ノ人

俗称　有坂氏　居　姓
号　　居　名

江戸ノ産

北斎ノ画法の業を傳
かゝり摸本の容画ゆゑと
板刻本甚ゝ珍しくて人知る
も尤ゝ

国立国会図書館　燕石十種. 第25-26冊　わ081-10

ガラス使用

曲画とよくそ名誉ありし
妖婦伝ハ玉山法の大作ともいふべく
妻もせり手柔和ニ語頭舎又多志 里月東の号
軍書の画人もの多し 高井蘭山編 彩色摺
ハ枚挙するにいとまあらず 門人遊高拉斐
画風ハ一派の筆意ありて后ハ土佐の法を
慕ふ歟ともいふべく画り師の画風とハ大ひに
異なり 文化 文政ヨリ天保ノ今ニ至ル

魚屋北渓

俗称 初五郎
号 拱高
居始 四ツ谷サメガハシ
后 赤坂永井丁代地
姓氏ノ如ク用ノ
葵園

始めハ狩野雪川院につきて画を学び
后小高の甫ことなりて浮世絵師となる
四ツ谷の魚屋なり仍て画名の侍ふ徳しとも
狩野画ハ描れくぬるまりし山奥の雪中にて
画法能く師の例とゆるり 浮世絵ハ法度の様画
多きより仮名垣魯人画ハうたる彩色の表画をて
名をし門人多し

岳亭春信

俗称 斧吉
号 八島 定園ト云
北渓の門人なり 狂亭抱月 笑双亭 傳本多を
画り

葉の苑二冊 寛政作 表ナ年録 二篇ヨリ馬琴作 吉原十二時 画又六樹園作
彫刻の画ま多れど名ハ知
江戸名所附 彩色摺
江戸青山人

国立国会図書館　燕石十種. 第25-26冊　わ081-10

ガラス使用

柳川重信　文化文政ヨリ天保二年ニ没ス年五十余

俗称　木姓拾木氏　男　江戸人

号雷斗　居　始本所柳川丁　后根岸大塚村

如雷のつよく画法とくく小舟の娘と妻
て舞ふより雷斗の名を得くく　姓ハ居ヲ本所柳川町ニ在シヨリ柳川ヲ以テ姓氏ノ如クニセリ
板刻の春画よくまれり師の画法とくせっ
一派の風をとり彩色画ハ東風大イニ行ハル
のゆゑより真の浮世絵と似たり
多双紙と多くく画り　柳亭種彦始ヲノ作童信始ヲノ画
京一番娘羽根画村六板文化四五年比ノ作
出ぞり　柳亭姫テノ作奴の小まん柳文字午掛軸
山崎平八下云春林花之　昔人形

大な世よ行れて枝千枝をなくく
世を重信風とふ浪花よりくく刷られしっ傑
まて明治　春よ人形細工等の製作よ奇
妙あり　南北ヲ画の筆法と画り天保
三年　十月没ス門人重信

物よ重画ハ師重信の筆とまれり
俠客伝二篇六ノ巻ま二丁重信病重ルし時
重心後て画しものなりけん　初篇ハ英泉画ニ
次編重信英泉画
芸能重山の筆　清まあり
と云
画本あり　鶏肉　衆星閣　南九屋　高価板
小枝　繁昌記

国立国会図書館　燕石十種. 第25-26冊　わ081-10

ガラス使用

菊川英山
俗称 房五郎　市ヶ谷ノ産　居麹町ニ住
号重九亭

文化 文政ノ比

姓ハ久英二ト業ヲ学ヒ（遂ニ花ノ業トス 通ジ屋トモ）北渓ノ初年ヨリ北渓流ノ画ヲ以テ古今唐絵ノ画風ヲ似テ一家ヲ立ト云ヘリ故ニ豊国春扇ト並ヒ称セラル浮世絵人活中興一家ノ祖トス故秀湾

文化三四年ノ比堀江町ノ国周ト不和ニ年英山ノ役者画ノ国周ヲ

（東舎ト云人ハ此也 板刻ノ画ハカズ 菊川一家浮世絵作ル）

名俊信

（ここめて役者ハ錦絵ノ始ノ画ノうちニ）
ヨリ国周画ヲ英山ニ役者画ヲ始メテ此比ヨリ三年ヨリ
浮世絵ヨリ錦画ト云ヒ多色摺ニシテ英山ノ画ヲ
ヤ大ヒニ変レリ（ト云ヒ唐絵ヲ以テ人画法ヲ用ヒ

役者画ハ豊国英人活ハ英山ト並ヒ称レ

英山ノ画ハ豊国英人ヨリ美麗ニシテ彩色ヲ施シ人ト全ク異ナリ草双紙四五枚アリ 竹塚東子作 大鶏塚 板元西村 三馬作 橋本徳瓶作 三年後ヨリ

画ハ英人浮世風俗ヲ写シ活ハ誇張ヲ以テ名所ヲ画ニ用ヒ
俗ヲ写シ一時ノ戯ヲ専ラ文政ノ末ヨリ業ヲ廃
シ多ク板下ヲ画ク人多シ菊川流

国立国会図書館　燕石十種. 第25-26冊　わ081-10

ガラス使用

蔦川英山門人

英章　錦画　浅野氏　英泉　別ト記ス
英里　ウチハアリ
光一英章　掃画アリ　冬木氏　英信　不詳ニ画多シ　安立廓
英蝶　春画本アリ　狂文ノ形ナリ　名章三
　スリモノ画アリ

甚数十人あれども板刻の画とうたものい多
おのきた

周ら曰英山い画もあれども譲むる双紙と画
るるを甚だ一十返舎一九死の貧福論のさし
名い此人の画るり第双帝し徒飛ん死の婦川
ありり

英泉

文化文政ヨリ天保ニイタル

俗称　善次郎　后里久

姓　藤原　本姓　池田氏

名　義信　三

別号　渓泉

死名　翁

居住　江戸数寄屋橋ニ住ス　始メ薗町　后根岸　新田村

江戸ノ産　池田氏ノ男

一号　一筆庵

国立国会図書館　燕石十種. 第25-26冊　わ081-10

ガラス使用

可候　戯作ノ名ナリ　我仙ノ美女双紙中本春画本等アリ

始め幼年の比狩野白桂舎（白桂舎ハ狩野栄川法印ノ高弟ナリ）に画を学ぶ　後狩野国春（国春ハ北尾ト云リ）に入門す　青雲の志ありて仕官を志ざす　壮年より流浪して江東宋明の唐画と好を書を読の一癖あるを以て通称とす　後ち戯作を以て世を渡る　双紙中本春画好色本と多く世に行はる　当時流行の浮世絵師と雖も大ひに画力に異なり　北斎等の画風と異ひ画力普法を以て

て后一家をなす　吉掲（新吉原ト云）妓女の姿と写ひ　専ら其家くの風俗（ツテカケ）模写と言ふ　仍て当時世の好事家と画くを以て故に其の名高し　此人よく戯作に優を以て自ら画し　仍て自ら画いかた浮世絵師の又蔵と慕しとそを双紙合巻中本綉像優本数十部を画り此人偉文化の末より文政の号大ひに行はれ筆も多くの読本挿画彩色摺（錦画ト云ヒ多色摺ノ事）大坂の書肆より読本多く出板ス　三部

国立国会図書館　燕石十種. 第25-26冊　わ081-10

ガラス使用

の別本を江戸より出板して画しらべの小冊子ありつゝも多くあり

浮世画譜　画手本自初編至十篇　尾州名古屋本町一丁目昏林東壁堂永楽屋東四郎板

容艶画史　美人画ノ画則ヘ　江戸昏肆

錦袋画叢　諸職ノ画手本　大坂心斎橋博労町北ヘ入群玉堂　河内屋茂兵衛板

繪本初心画譜　馬喰町二丁目西村与八永寿堂板

画本　芝神明前甘泉堂和泉屋市兵衛板

此他枚本ノ小冊子ニ而紀ス事ヲ遑あらざる別紀ス

渓舟　英泉門人

英春　俗称　大木氏　小石川　和泉川七ツ又　英矢　京ノ人ニ在江戸没　錦画多シ

春画　錦画多シ

英之　俗称　源二郎　菊町　英寿　俗称　伊三郎　浪花ニ在住シテ名ヲ改ム　草双紙　錦絵多アリ　木花翁

泉晁　口　吉蔵　吉カン島　泉橋　口　仙吉　向嶌　紫領斎

泉隣　俗称　井村氏　中本　中本ヨミ本多クアリ　浪花ニ在住シテ名ヲ改ム　草双紙　錦絵多アリ

泉里　口　浜吉　コウシ町　中本　サシエアリ　中本多ク画作ヲ出ス　筆耕ヲ業トス

中本サシ画アリ

板刻の画とそなるいふ画名をもて浮世絵師数あれども一時の人なれバ

英の字を泉山つくと混

国立国会図書館　燕石十種. 第25-26冊　わ081-10

ガラス使用

畧傳ヲ云一筆庵英泉ハ墨名ノ高キ
父母存在ノ中ハ遠行セサル旨ニテ父ハ池田茂暗猴山不言狄ノ門人ニテ書ヲ能ス讀書ヲ好ミ俳諧ヲ
千家ノ茶ノ湯ヲ善ムト云ヘリ
母ハ泉市ト云ヒ浜町ニ住ス至孝ナリシ
ガ文ヲ善クシ双親ヨリ前没ス池田氏
家貧シカラシメ文紀ノ姉父ハ蚤没シ
母ハ冬没ス幼キ妹三人ト養育セシ
後老母ヲ慰ヨカラン浜ノ人トナル水野
家ヨリ画称ヲ得テ抱月ト号セシカ世ノ
ト欲シ志ヲ廣クシテ浮世絵師トナレリ

戯場粉会似figure初代篁冠者
入千代因戈帝ノ名ヲ漢ク似figure
工篁川英二ノ称ヨリ富居ル 英二ハ英山ノ実父ナリ 大ヨリ以上テ
諸侯ノ召ニ應シ彩色画多クアリシト聞ケリ
列ヨリ以下英泉ト画名ヲ争ヒシ由ヤ
ヒトヨリ名ヲ易ク氣ニ
勝ルガ如ク風ヲ画キ羽多板ニ
雪ヲ降ラス梓ヒラルヽ
板刻ノ画ヲ描キテ
遠景ニ小石ヲ撒ケル
死セラルヽ潮ニ甚ク
ト画ヲ与ヘ

此比風ノ画ノ多クモノハ一目ニ見ヌヨシ
ト泉七ノ如ヤウニシテ見ルニハ他人ニテ
今ニ至テ二ノ人ニテ定ルトノ人ニテ云ヘリ

国立国会図書館　燕石十種. 第25-26冊　わ081-10

ガラス使用

芝童松の涙ま碇屋六兵衛と云ふ商人
あり（昆布ニ巳屋仁兵衛ト云ん 板元ナリ）此人始末第法をもわの板元と
業とをゝめ泉と契て泉と云ふ
泉衣裁作ん〳〵て出て不図主人淑こま
の家を知く事れいく人の衣裁と洒食に招て
酔て本性なく虎鰒と生なく（鯆）壊と云ま
薬て皆と喰ひ牧と好て喰ひ羽化（なり）て、蔓
〳〵もとき〳〵と出〳〵と思へば夜形ま
急て上洛木更津ま到る（木更津ヨリ立里程入周淮郡
二池田氏ノ苗裔アレハナルベシ）
る放蕩ま私の人とつゝさゝ小もと

不悪人元の板元のもくめふう居と称松家
即町ま宝ゑゝ食宝を集めく至夜つま
寝と不用意を伝知と云れく大ひま通夜した
笑の形はるれも新旅他人ま今様とかしも
不信品ゝが業よりも甚くま称なくま
きつのこ甚后妻とむうへ一女子と云ふ
ゝもう姫人ま明うて板到の活ま称と抽く
夜と不寐ゑつゐて不色十有余年の間形
到奈市の活本綿元人ま称れく事
ゑゝ野ま世ま変て市に変ゐあく一

国立国会図書館　燕石十種. 第25-26冊　わ081-10

ガラス使用

あとをう門人多く画を業とする者
ありて志ざし遠慾と云ふ 周に
名を記す
彫お大工
後藤義右門

雪旦ノ子 雪旦
俳名
五楽

始め狩野派
のつ人等雪舟の画風
とをひく一家となる
一幅の画ゟ山水人物
能く唐画の筆意も
能く 按ニ 長谷川等伯 始久六叙法眼
能洲七尾ノ人

江戸ノ人也

始狩野氏ノ門人也后自立シテ
自ラ雪舟五代ト唱ス慶長中没ス 久蔵等伯信春 子等伯宗

也子等的 等林 等幌 宗宅 等作

等伯ノ門人ナレ共画風各異ナリ固ヲ云雪舟
ヲ称号トシテ門人ニ入ヘシナリ長谷川モ画
商ナリト混同シテ治世ニ誤ルモノナリ

皃等の画商を續ぐもの多く画法一家を
なして板刻の法本多く
東都(江戸)名所皃舎物(の)
物語ゟ等の筆の物多く画(の)り一流の名
なり

雪旦 男二 雪堤アリ

国立国会図書館　燕石十種. 第25-26冊　わ081-10

ガラス使用

掬水 東都ノ雪舟ノ画裔ト称スルノ者ナリ

川島 雪亭 田安侯ノ画師ナリ雪舟画孫ナリ雪舟ト呼ブ吳ナレトモ名ヲシル寛政ノ比リ天保ノ今ニ至ル存ス 市ヶ谷住ス

赤堀井秋山ト云人アリシ 画則モ冊ヲ抄剝シテ錦画ヲ出セリ 天明寛政ノ比ノ人也 雪舟ノ画孫下称ス 本郷ニ住ス

長谷侯ノ画中ニ雲谷ノ画裔ト称スルノ者ナリ

雪舟十三世ノ画裔ト称スルノ者数人アリ 雲谷等琳ト云ルノアリ雪舟流ノ画ヲ慕ヒ自ラ〳〵誤伝ヘ其祀元祖雪舟 雲谷軒 等揚

称式ノ名画アレハ其真名ヲ慕ヒ模多キノアリ 佛ヲ中ニシテ佛ト云ヒ仏恵心ノ仏ト云ヒ仏師ト業ト云ヒ皆ナ仏ノ字ヲ用ユ

名ヲ呼古法ヨリ義ヲ寺本ニ在ル柱ノ札類朝ヶ腰掛石ナド人ノ知ル名ノ人トナリ〳〵ヲ同ジ

ハ一流ノ妙ヲ得リ 像屏宗達光琳ノ筆ヲ傚テ画シリノモアリ明画神ヲ写シ山水ヲモ其名ヲ其云ヒト採リ画ケハ名人ノ所為ナリ 浮世画ヲ列スルノ如キモ 板刻ノ画ヲ

ケレハ姑ク多ク載ス 法橋玉山ノ如キ

ナリ云ヘシ

国立国会図書館　燕石十種. 第25-26冊　わ081-10

ガラス使用

泉守一　寛政享和　文化中没五十余才

俗称　吉兵衛　泉氏　居本郷一丁目

号　寿香亭

目吉ト称ス

江戸産也

俗中ノ渾名ヘ

始め豊古多琳の門人なり后狩野探信門人なり宇の字を免許さる町画ハ一ト惜の名ありて武者画と云ふ父ハ泉義伝とし狩野流の門人にて画工なりし俗称の目吉と云ふ画名ハ本々の一侠客なり紙狩野流の画法と学び墨縁共雲龍

雑画の絵ハ狩野画なり

の画扇画多と出ず泉吉兵衛ハ彼社浅草

清の修慶彩色浮用と勉む　日光久能山江戸両山ノ彩

職人の匹なり　彩色浮ハ清順也

三代目吉兵衛ハ門人林之助ト云シ者也実子聟女ニテ相続ス業ヲ勉ム

家也ま楼閣多軽の画あり生涯名と云ふ画き

社匹ま五所明宗の額あり町天神の

画ま柱ひの画ありて足し家あり再絶ま

つまま泉鉄有号と寿川ま云ふ雄師の

画風と学ひあり

堤等琳

江戸産也

叙法橋

号 深川斎

二代目等琳の門人なり雪舟十三世の画裔と称し一家の画風首法となし画工と為せしかた祖述する琳と云ふ元祖等顔天明の比より此画風市中に行れ幟画多分此流なり画風とよく似たれども等琳の画風筆力揚れて妙なるも拘物出屑更に其板刻を見るに及ばず別人の筆なるや同じて論じがたし

浅草寺本韓信の家の杜月と云ふ代用等琳と改名せし時の筆なるや雪舟の画法一流の筆力とみゆ三代所の筆意墨色の濃淡絶妙なりと比評する画法なり未審師大坂より江戸画風と等しきの門人あるや綿馬屋幟人幟画職人堤竹屋職人絵馬と用ふ職人絵の者皆此人となりて画法と等しく深遠此徳の画法とゆゑに江戸産の達者となんして師の

筆意の妙所と云ふ者多く甚流俗と乱
ず世よく画風とのゝ町法と称めて憾画
とゝいふ歟しきるゝ雪山いと細工多種の奇
巧と造りてえもいはれぬ者多くとゝ
社の彩色し多く此人の法也
あり（堀ノ内妙法寺 ドブ店 祖師堂 玉姑稲荷 墓所 等）
乞世の一豪傑なり ○すべて三光 楊井秋心ノ父

堤等琳 之祖 俗称孫二 竜耳等琳ト云 堤流之祖

堤等琳 二代目 俗称吟二 本性月岡 ンラ

堤等琳 二代目 俗称孫二 雪紅 筆女

等舟 恵山 日本橋中通り万町 画風ヲ改テ一流ヲ立 妙手ナリ

目吉

秋月

等琳 三代目 法橋 別記アリ 雪山 淫川ト改

秋琳 春扇也 月屋 栄山 浅草三谷 等場 カウシ丁

等川

等ケイ

秋月 始等舩 今雪村 等栄 茅場丁

雪優 木町一丁目 泉山杜月 木宅也

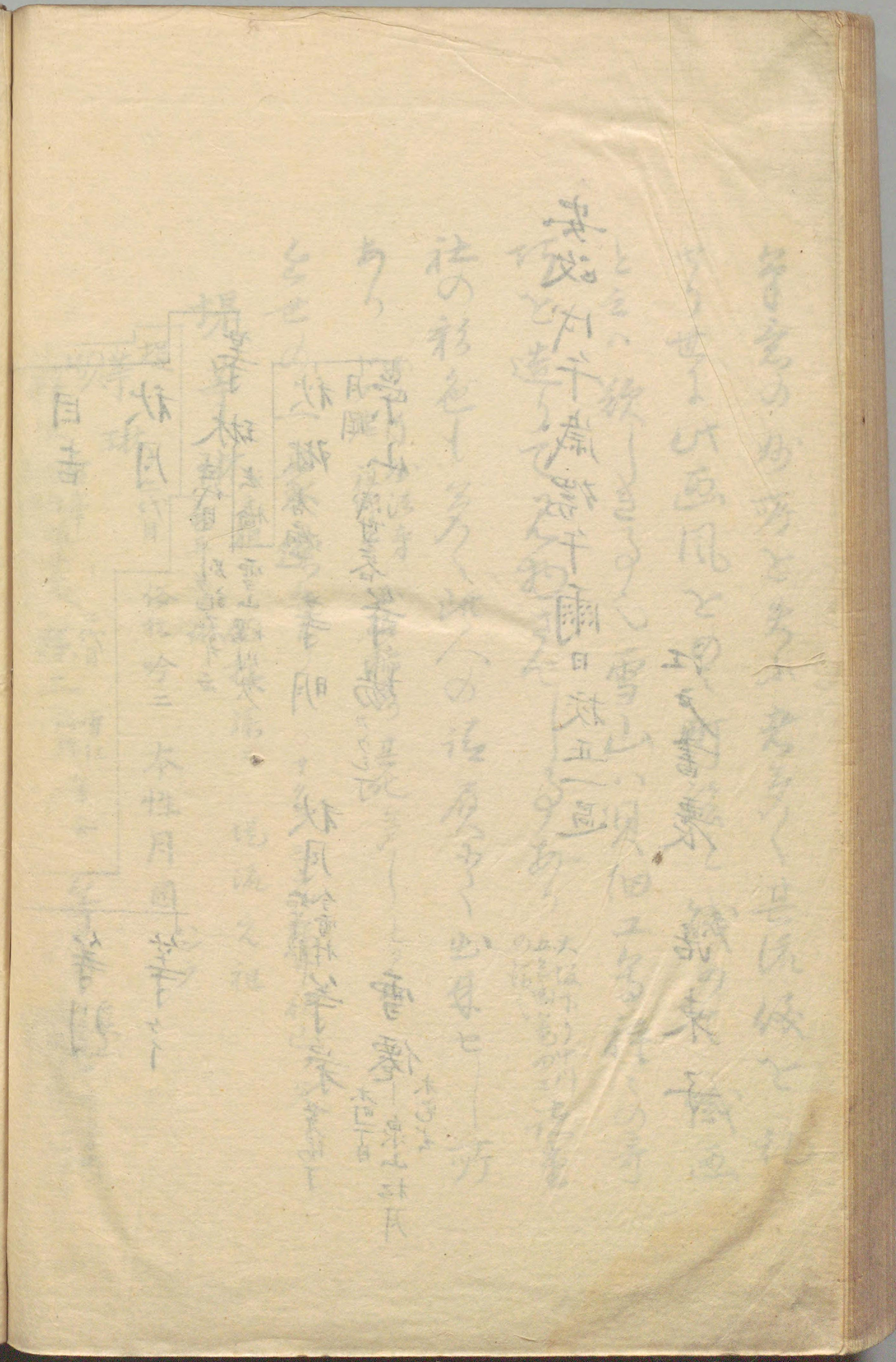
安政弐千歳端午雨日校正一過

江戸書農 活東子

国立国会図書館　燕石十種. 第25-26冊　わ081-10

ガラス使用

特別
61
3



国立国会図書館　燕石十種. 第25-26冊　わ081-10

ガラス使用

わ 081
10
14

国立国会図書館　燕石十種. 第25-26冊　わ081-10

ガラス使用

国立国会図書館　燕石十種. 第25-26冊　わ081-10

ガラス使用